

北野文書 ⑦ 「おさしづ」の写し翻刻

おやさと研究所員
安井 幹夫 Mikio Yasui

(前号からの続き)

(24) 明治廿四年六月三十日 前川菊太郎縁談ノ事二付心得」(45才)

の為の何う 又小東をふみ 増井とみ糸

さあへ尋る処 一たん一条さだめた事情ある日々に 心のり
三ツ事情さとしたる 一時をもいがけなき 一ツの心をさまり
がたなひ ふかきいんねんへ いんねん親々のりによつて浅
き心もある あちらもきゝた すつきりきつてしまう 他三ツ
の事情

押て」(45ウ)

双方の理を切て更に他より貰うても宜敷や何う

さらに事情はこぶがよい

押て 神様の刻限にて御定めすか 又八眞の助より尽力スルモ
ノ有舛かさあへちからをつくすがよい だんへ道を よく心をもつ
て一時ばつとりにさとせん ころへの道はこん」(46才)
でそれよりしゆんへ尋ねるである 尋ねる 又さしづし
よ(25) 明治廿四年七月七日 芦津分教会御勤め九ツの鳴物を衣
物紋の処御願さあへ尋る事情 尋る処 さあへぜんへの事情 ぜん
へのどふり ところへに せんへの事情ある ぜんへ
事情もつてしいかりゆるし」(46ウ)

をく 心どふりしいかり事情どふりゆるそ

(26) 明治廿四年七月廿三日 本席身上御願

さあへ 尋るからしいかりきゝわけにやならん 尋るへ
尋ねたばかり かいだばかりでハわかるふまい かいだばかり
でハ尋るまで 日々席事情どふなりこふなりはこび どふゆ」
(47才)事も尋ね一時の処さしかゝる どふゆふ事さしかゝる 一時し
ばらく事情とりにくかる 日ハきらん きゝにくかる さしづ
へかづへの事情ハわかるまひ ほんのかつてだけさしづと
してしまい これまでとゆふハみんなそれへ はなしへの
事情にて決議の事情 尋ね一条にさとし さとした事情にて一
寸をさまりハ そこい」(47ウ)への事情 もちいたりもあるなれば かつてこれハこれだけ
とゆふ いかなるも萬事あらためてこれからといふ さしづど
ふり 神一条の道であるふか だんじあい 神のりであるふか
此はじめた道 人間心の道であるふか とりなをし 何か萬事
さしづ 一寸事情ハじいくりやすめさすから その心でいてく
れ やすむといふハ どふゆふ事」(48才)やすめさしてハ どふゆふ事も尋ることハできよふまひ これ
をしいかりきゝわけ 身の処じゆよふじざいとゆうてある 身
のせつなみ めんへできるでんかよふきゝわけ 今といへバ今 のちといへばのち さあへよふしいかりきゝわけ だ
いじの処やで(27) 明治廿四年七月廿三日の夜 先の差図にもとづき御願」(48
ウ)さあへいかなる事 これまで尋ねる処 ぜんへの処 一
時にハわかるまい どんな事もわかるまい なれどわからん事
ハゆわん ミな心のりがそわぬからわからん ぜんへにもさ
とし 刻限のりにもさとしたる さしづのりをもつてとりあつ
こふ処に さつぱりわからん みんなどふぐよせてある 尋ね
でれハ神一条の道である ど」(49才)ふせこふせとハ一度もゆふた事ハない なるよふいくよふかん
なんならかんなんだけをもわねバならん そのりがかさなりた
らどふもならん をなじその中へに上下のりハなひで わか
らんりにをされる 一度ハよい二度ハよい三度ハよい 神がゆ
るしてこふとゆふりハ 一ツももちいてなひ たがいへりを
くずし 日々の処さしづともゆをふ」(49ウ)まひ 尋ねともゆをふまひ わからんへの中から しいかり
たよりをきいて たよりをつとめているよふなもの 尋ねなか
ら今日の事情によほどさしつかへてある 人間の心のりがミな
そをいするからをさまらん まあよいハへにんきへ世界
へたれへといふ 天理教会にハをしてハなひ 事情ハミな
世界であつまりたる処 これで」(50才)盛大へとをもふ心がまちごふ 此日を見るのが中へやある
ふまひ めんへはなし方つたへ方 世界つくすもの 心さつ
するなら まちごふ事ハなひ 是をだいとしてミなさとしてく
れ いつもやへとゆふて ついにハりにをされて どんなく
らがりともわからん だんへの道のため たすけ一条のため
とふりたらわかるやろ」(50ウ)あとへの道をもてみよ なみたいていの道やあるふまひ
一時ぜんへふかきさとし 事情によりてとりあつかいむつか
しかる 世上事情みな心をよせる あのもののゆふ事たてに
やならん めんへかんなん 神かんなんの道もわすれてハど
ふもならん 世上あかるい道でも何時くらがりともわからん
是迄」(51才)の道をわすれぬよふ わすれさへせにや よふへの道ハゆる
してある 神一条よりほかの道ハとふりてミよ 一度ハとふる
二度ハとふる 三度ハむりにとふる 神一条さしづより 外の
道をとふるものハわけてしまへ さあすミやか身上をたすける
事情にはこんでくれ 席といふハ何年いぜんへなにもわから
ん中から」(51ウ)わけてわからん処からのり しこみてきたりをきゝわけてくれ
りや ゆるそふ これハこんな事や こんなものやとゆふよふ
でハどふもならん さあ日々事情にさんげ事情 これが第一
しいかりきゝわけ

(次号へ続く)